

第4 1回蒲郡市地域公共交通会議 議事録

1	日時	令和6年3月27日（水） 午前10時30分～12時00分	
2	場所	蒲郡市役所 北棟集会室	
3	出席者	委 員 愛知工科大学機械システム工学科教授	村上新
		委 員 名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授	松本幸正
		委 員 愛知運輸支局	宮川貴彰
			（代理 岡本清志）
		委 員 愛知県都市整備局交通対策課	石屋義道
			（代理 吉野敬太）
		委 員 総代連合会会長	藤田幸三（欠席）
		委 員 形原地区公共交通協議会	天野忠則
		委 員 東部地区公共交通協議会	大場正司
		委 員 西部地区公共交通協議会	神田藤男
		委 員 三谷地区公共交通協議会	廣中康人
		委 員 大塚地区公共交通協議会	飛田直俊
		委 員 西浦地区公共交通協議会	吉見功
		委 員 蒲郡市身体障害者福祉協会	神田元治
		委 員 蒲郡市老人クラブ連合会	鈴木香代子
		委 員 蒲郡市社会福祉協議会	鈴木良一
		委 員 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会	蟹江徹
		委 員 NPO法人ブックパートナー	新井麻利子
		委 員 蒲郡市ボランティア連絡協議会	山本なおみ
		委 員 蒲郡市子ども会連絡協議会	鈴木照江
		委 員 蒲郡商工会議所	小澤素生
			（代理 青木宣貴）
		委 員 蒲郡市観光協会	杉山和弘（欠席）
		委 員 名鉄バス株式会社	大野淳
		委 員 豊鉄タクシー株式会社	長縄則之
		委 員 株式会社かねー自動車	天野成美
		委 員 名古屋鉄道株式会社	花村元氣
			（代理 石坂大三）
		委 員 公益社団法人愛知県バス協会	小林裕之
		委 員 愛知県タクシー協会	深谷克巳
		委 員 愛知県交通運輸産業労働組合協議会	壁谷政志
		委 員 愛知県蒲郡警察署	松井晴一
		委 員 東三河建設事務所	堤一史
		委 員 蒲郡市長	鈴木寿明

委 員	蒲郡市市民生活部長	飯島伸幸
事務局	蒲郡市交通防犯課長	柴田剛広
	蒲郡市交通防犯課係長	伴文明
	蒲郡市交通防犯課主事	石川雄策
	地域公共交通計画推進事業受託事業者	三菱ＵＦＪリサーチ&コンサルティング株式会社 １名

4 議題

- (1) 開会挨拶
- (2) 委員紹介及び役員の氏名について

5 報告事項

- (1) 蒲郡市内公共交通の利用状況等について・・・・・・・・・・【資料１】
- (2) 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果について・・・・・・・・【資料２】
- (3) 地域公共交通ネットワーク再編検討調査事業について・・・・・・・・【資料３】

6 協議事項

- (1) 蒲郡市地域公共交通計画の一部見直しについて・・・・・・・・・・【資料４】
- (2) 令和６年度蒲郡市地域公共交通会議事業計画、予算（案）について・・・・【資料５】

7 その他

8 議事内容

(1) 開会

- ・ 出席委員が３０名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第７条第２項の規定により会議が成立すること、本日の会議が公開となっており、傍聴を希望される方がいることが事務局より報告された。

(2) 議題

・ 開会挨拶

蒲郡市長より、３月２３日に西浦地区にて市内６番目となる潮風くるりんバスの出発式が開催され、名鉄、名鉄バス、コミュニティバスの３つの交通の拠点が整備できた。また、塩津地区でも７地区目のコミュニティバスの地区協議会が開催され、議論が行われると聞いている。

公共交通サービスは市民の生活の足、観光客の足としてなくてはならないもの、関係者の皆様と連携しながら移動サービスの提供を進めていきたい。とのあいさつがあった。

- ・ 議長より本日の議事録署名人として２名の委員が指名された。

(3) 報告事項

ア 蒲郡市内公共交通の利用状況等について

- ・ 事務局より資料１に基づく報告が行われた。

〔質 疑〕

なし

イ 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果について

- ・ 事務局より資料２に基づく報告が行われた。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 二次評価は中部運輸局にて評価した。評価できる取組の文末について「評価します」とされている、他に「確認しました」と表現されることもあるが、それと比べとても良いという整理になる。事業の取組みが評価されているということ。

期待する取組の中で、特に気になる点として１運行あたりの輸送量が２人未満の系統があること。コミュニティバスは乗合事業として認可されているものであり、乗り合わせての利用、つまり１運行あたり２人以上の利用がない状態だと乗合である意味がなくなってしまう。利用促進や不必要な時間帯の調整などの取組みを期待したいということになる。現状の取組状況がダメだということではなく、今後の取組みとして期待したいことを整理している。

(委 員)

- ・ 潮風くるりんバスの運行開始に関連して、形原地区との接続についてユトリーナは朝は開業していないため、外で乗り換え待ちすることになるため風よけ等が必要ではないか。

乗り継ぎ利用の割引等について以前から議論があるが、利用促進を考えるなら乗り継ぎの利便性を高めていくべきと考える。三河鹿島駅での乗り継ぎも考えられるが、待合環境は良くない。

地区の老人会では、ベイシアに行きたいという声がある。買物の場合、近くに停留所があるようでも帰りは荷物があって利用しにくい。実際、タクシーを相乗りなどで利用していると聞く。形原地区からベイシアに行けるように地区を超えて伸ばせるか、もしくは形原公民館で接続できればと思う。

(事務局)

- ・ 待合環境については、風除けなどの設置についてはすぐには難しいが、ユトリーナに限らず、結節点などで整備が必要と思われる箇所については検討したい。ユトリーナでの乗り継ぎについては、待ち時間がないようにダイヤを設定している。

乗り継ぎ利用の割引については、コミュニティバスの乗り継ぎだけでなく、他の公共交通手段との乗り継ぎ移動についても選択に入れてほしい、全体で考えたい。

ベイシアの接続について、塩津地区の協議がはじまったところであり、その中で一緒に検討を進めていければと考える。

(委 員)

- ・ 先日の出発式、運行開始にご協力ありがとうございます。雨天のせいもあるかもしれないが思っていたより地域住民の関心が弱かった。地域としてコミュニティバス利用の気運を高めていきたい。実際に利用された方からは、運行してありがたいという

言葉を聞いている。

コミュニティバスについて、路線バスと競合させるものでなく共存していくものとして、路線バスが幹線でありコミュニティバスは支線であると地域で説明している。ルートについて、極力競合を避けた設定をしたので、住民のコミュニティバスに対する満足度は必ずしも高くない。利用者の感想を聞きながら改善をしていきたい。

利用者数について、便当たり2人乗ってくれるか心配がある。2人に満たない場合にペナルティはあるのか。PDCAについても教えてほしい。

(事務局)

- ・ ペナルティはないが、便当たり2人未満については乗合である意味がなくなってしまうという話があったように、国の補助をもらう上で要件になっている点は留意してほしい。ただし、西浦地区についてはそもそも補助要件に該当していない。

PDCAについては、利用者数の推移などを確認していく。少なければ、周知やイベントによる啓発などのPRを強化するということになる。運行開始したところであり、地域での認知、生活になじむまでの時間も必要。停留所ごとの乗降者数について確認し、見直し検討を行ったりもする。多くの利用がされるように一緒に検討を進めたい。

(委員)

- ・ 利用した際、遅れを取り戻すような運転に感じられた。高齢の利用者が多いのでゆったり乗れるようなコミュニティバスにしていきたい。

(事務局)

- ・ ダイヤについては運行事業者に事前にテスト走行をしていただいている。実際に乗降があると、利用者もまだ不慣れであるため時間がかかると思われる。様子を見て、ダイヤの見直しが必要なのか確認したい。

(委員)

- ・ 三谷地区は1月で丸3年を迎えた。地区のニーズとして、毎日運行、市民病院への直行という意見がある。現在市民病院へは東部地区支線バスとの乗り継ぎが前提で片道200円必要。1日乗車券の導入検討を進めてほしい。

大塚方面の路線バスへの補助事業費をコミュニティバスに投入すべきと考える。蒲郡の交通をよくするため、歩み寄る議論を期待したい。1日乗車券の議論もバス路線への配慮により進まないのか。企業努力はされているのか。

(事務局)

- ・ 本市では、地区単位でコミュニティバスを設置し、地区内での運行を考えてきた。地区を超えるというのは、言い方を変えると路線バスになってしまう。

今年度、交通事業者ヒアリングをした。バス事業者、タクシー事業者ともに運転手が足りないという意見を聞いている。コミュニティバスの毎日運行は現実的に運転手の確保が困難と聞いている。

1日乗車券については、運賃割引となるのでその分の費用が必要となる。事業収支面から、収支率10%をクリアしてから導入検討すべきと考える。

(委 員)

- ・ 前向きな議論をしたい。運転手の問題は確かにあるが、人がいないからできないというのでは進まない。話し合いの中で、解決策を出せるとよい。

(事務局)

- ・ 市民病院への接続などは、東部・三谷地区を一つに大きく回る路線にするなどの方法は考えられると思う。

(委 員)

- ・ 企業努力について、例えば、まつりでバスの展示協力を行っている。路線バス利用も認知していただく必要があり、PR 活動を行っている。

バス事業について、事業計画を立てる際は市内全域を考えるべきだが、支線バスだけで検討されていると思ってしまう。

話し合いの場には参加したい。既存の路線がある中で、その路線を考慮されず支線バスだけで検討が進むようであれば、路線の存在の意味はない。

- ・ 市民病院に行きたい、または路線バスは運賃が高いというのであれば、コミュニティバスだけでなく路線バスも運賃の議論に参加できれば解決の方策はある。その議論に参加できることは事務局には伝えている。コミュニティバス、自主路線バスだけで議論すべきでない。

(委 員)

- ・ 資料 2 の二次評価結果の期待する取組の 2 つ目に、鉄道や路線バス等について、関係者と連携し公共交通ネットワークとしての乗り継ぎ利用も含む利用促進等の検討・取組を期待する、とあるとおり、名鉄バス、地域との話し合いの場をつくってほしい。法改正により議論できる場をつくる環境は整っているので、それにより、より良い方向性を導いてほしい。

ウ 地域公共交通ネットワーク再編検討調査事業について

- ・ 事務局より資料 3 に基づく報告が行われた。

〔質 疑〕

なし

(4) 協議事項

ア 蒲郡市地域公共交通計画の一部見直しについて

- ・ 事務局より資料 4 に基づく説明が行われ、全会一致で承認された。

〔質 疑〕

なし

イ 令和 6 年度蒲郡市地域公共交通会議事業計画、予算（案）について

- ・ 事務局より資料 5 に基づく説明が行われ、全会一致で承認された。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 事業計画に対する意見はないが、資料４－２の交通計画の見直しの２５ページで（b）関係者間の連携強化による事業推進のための目標設定において、地域公共交通会議の下部組織として設置している「地域コミュニティバス協議会」「地域公共交通連携検討委員会」等を適切に開催し、必要な協議を通して関係者間の連携強化を目指すとしている。コミュニティバスについては地域ごとに協議会が行われていると思うが、地域公共交通連携検討委員会の開催状況はどうか。

（事務局）

- ・ 地区の協議会は毎年度、地区のメンバーが必要に応じて集まり、運行状況等についての確認など実施されている。

地域公共交通連携検討委員会は、交通計画策定の際に地域公共交通会議の下部組織として協議する場として設置したもので、計画策定時には開催したが、現時点では開催していない。

（委員）

- ・ そのような下部組織があるので、地域、交通事業者、関係者の参加をいただいて、意見交換をしていただきたいと思います。

（５） その他

（委員）

- ・ エリア版 MaaS アプリ「CentX」累計 100 万ダウンロード突破の資料を配布した。

（市長）

- ・ 皆様と市民の幸せのため一緒に取組みを進めたい。
- ・ 東京で行われたプロジェクトマネージャー養成講座で本市の公共交通に対するアイデアの発表をいただいた。公共交通がいろいろな交流、外出機会の増加・健康増進にも繋がる。地域の参加が運輸局からの評価にも結び付いている。
- ・ 途中の意見にあった話し合いの場はつくりたいので、今後も協力をお願いします。

（事務局）

- ・ 次回の地域公共交通会議について、６月を予定、正式な開催案内を後日送付すると連絡を行い会議は終了した。